教師用指導案「東京 1964 大会のレガシー」

〇対象： 中学生
〇本時のねらい： 東京 1964 大会が日本に残したものについて理解する。
〇準備物： 東京 2020 組織委員会ウェブサイト
オリンピック・パラリンピック学習読本中学校編
〇適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、学級活動、社会科、保健体育理論　等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5 分)	1）本時の見通しを持つ 【発問】大会の開催により有益な遺産（レガシー）を開催国と開催都市に残すことが求められている。東京 1964 大会のレガシー（有形と無形）はどのようなものだったでしょうか？	東京 1964 大会のレガシーについて何が考えられるか、発表させる。	オリンピック・パラリンピック学習読本中学校編 p.38
展開 (20 分) (15 分)	2) 東京 1964 大会の有形レガシーには次のものがある。 ・東海道新幹線や東京モノレールなどの交通網 ・首都高速道路などの道路網 ・旧国立霞ヶ丘陸上競技場や駒沢オリンピック公園総合運動場、日本武道館などの競技施設 無形のレガシーは次のもの ・スポーツ振興法が作られ、国や地方公共団体が市民のためにスポーツ環境を整え、スポーツに取り組む仕組みづくりが始められた。 ・街の美化運動がはじめられたことである。 3) 東京 1964 パラリンピックのレガシーとして、その後に障がい者スポーツの団体や競技会がつくられた。これらはどのように今日に受け継がれているか考えよう。	第二次世界大戦で、東京が焼け野原となったが、その後 19 年で完全に復興した大都市になり、高い技術力で都市のインフラを整備したことを理解させる。 東京 1964 大会以降に国民がスポーツに親しむようになって行ったことに気づかせる。 グループごとまたは隣の人と考える。	オリンピック・パラリンピック学習読本中学校編 p.38-41
まとめ (10 分)	考えをクラスで共有するとともに、東京 1964 大会は日本の社会を大きく変えたことを理解する。	東京 2020 大会も日本の社会に大きな影響を及ぼすであろうことを考えさせる。	